



FÛ EN
楓園

CONTENTS

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 — 特集 村岡花子の「赤毛のアン」 | 9 — 大学 NEWS |
| 4 — この人に聞く 巖谷貞子 | 11 — 行事報告 6月～8月 |
| 5 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS | 12 — 聖書の言葉・英和探訪 |
| 6 — 小学部 NEWS | 13 — 学院 NEWS |
| 7 — 中高部 NEWS | 15 — 英和の植物通信・お知らせ |



■ グリン・ゲイブルスを訪れて

『赤毛のアン』出版100周年を迎えた今年、カナダ語学研修に参加した生徒がアンゆかりの地、プリンス・エドワード島を訪れました。東洋英和と深い関わりを持つ『赤毛のアン』、今改めてそのつながりに思いをはせます。

村岡花子の「赤毛のアン」

「赤毛のアン」記念館・村岡花子文庫」主宰
村岡 恵理

力と気品とは彼女の着物である、そして後の日を笑っている。彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教えがある。彼女は家のことをよくかえりみ、急りのかてを食べることをしない。

箴言 第三十一章二五〜二七節（一九五九年宣教百年記念版聖書より）

出版一〇〇周年を迎えた「赤毛のアン」。その翻訳者である村岡花子（一九一三年東洋英和女学校高等科卒業）と「赤毛のアン」との深いつながりについて、お孫さんの村岡恵理さん（一九八六年高等部卒業）にご紹介いただきました。

村岡花子と東洋英和

着物をお洒落に着こなしつつ、読む本はいつも横文字。祖母村岡花子は「和魂洋才」という言葉がふさわしい、まさに明治の女性でした。激動の時代に翻弄されながらも、女性や子供に夢を与えたいと「王子と乞食」「少女バレアナ」「フランダースの犬」「赤毛のアン」など、多くの英米文学の翻訳を手がけました。座右には大きなウエブスターの英英辞典、そして常に聖書がありました。今回、冒頭に挙げた聖句には赤鉛筆で線が引かれており、聖句としては特殊といえるかもしれません。仕事と家庭の両方を大切にしたい祖母らしく、理想の女性像をここに



若き日の村岡花子

に見出していたように思われます。

村岡花子は明治三六年、一〇歳で東洋英和に編入し、一〇年間の寄宿舎生活でカナダ人宣教師から徹底した英語教育を受けました。富裕層の令嬢が多い中、貧しい茶商人の娘だった祖母は、父親と学校創設者との信仰上の繋がりから、給費生として編入しています。学費免除のかわりに、孤児院への奉仕活動が義務付けられ、また、成績が悪ければ即、退校という境遇でしたが、校長ミス・ブラックモアや大講堂の名に由来するミス・クレイグらの「神の名のもとに人は平等」というキリスト教精神に育まれました。日々、図書室で英米文学の原書を読み耽り、一六歳頃には、そこにあった本を全て読み尽くしてしまったそうです。この教育が女性の自立が困難な当時に、祖母の先駆的な人生を決定づけました。歌人の柳原白蓮やアイルランド文学の翻訳家の片山廣子など、優れた友人や先輩に恵まれたことも生涯の宝となっています。



グリーン・ゲイブルスにて（右 筆者）

運命の本「赤毛のアン」

祖母が、その運命の本に出会ったのは昭和一四年、四六歳の時でした。銀座の教文館で共に編集の仕事をしていたカナダ人宣教師、ミス・シヨーが第二次世界大戦へと向う国際情勢悪化により帰国する際、手ずれた「アン・オブ・グリーン・ゲイブルス」を祖母に手渡したのです。物語を読んだ祖母は驚愕しました。カナダの女流作家、モンゴメリによる美しい自然描写、不屈の魂を持つアンの魅力もさることながら、物語の中の生活文化やアンの学校生活、そして根底に流れるクリスチャン・ヒューマニズム……。それは母校の思い出と重なりました。ミス・ブラックモアをはじめとする恩師たちは、モンゴメリと同世代、祖母は奇しくも青春時代を、カナダ人宣教師がもたらしたアンと同じ文化に包まれて過ごしていたのです。やがて、日本も戦争へと突入。「鬼畜米英」が叫ばれ、英語は敵

性語とされました。灯火管制下、祖母は家じゅうの原稿用紙をかき集め、密やかに翻訳を進めました。空襲警報が鳴ると書きかけの原稿と原書は風呂敷に包まれて家族と一緒に防空壕に避難しました。命がけの翻訳は、恩師やミス・シヨーへの友情の証であり、日本の子供と女性の幸福を願う婦人宣教師の精神を受け継いだ祖母の使命（ミッション）でもあったのです。

戦後、出版となった時、問題になったのがタイトルでした。直訳の「緑の切妻屋根のアン」では長すぎる。編集者から「赤毛のアン」も候補に挙がりましたが、祖母は気に入っていませんでした。「直接的で想像の余地もない」と思ったからです。再三の話し合いの末「窓辺に倚る少女」に決定しました。しかし、大学生の娘、みどり（筆者の母）から「ダンゼン『赤毛のアン』よ！」と、猛反対に遭い、ふと我に返りました。この物語を読むのは若い人たちなのだから、若い人の考えのほうがいいのかもしれない……。慌てて『赤毛のアン』に差し替えられました。こうして昭和二十七年『赤毛のアン』が登場しました。



「赤毛のアン」初版本
1952（昭和27）年
三笠書房

こんなに似ている『赤毛のアン』の世界と東洋英和の生活

「赤毛のアン」の初版のあとがきには「この訳書を麻布の丘の母校にこもる若き日のおもいでと、今そこに学びつつあるわが心の妹たちにささげます」という村岡花子の言葉が添えられています。現在、新潮文庫全一〇巻に収められているアン・シリーズの随所に、私たちは明治期の東洋英和の雰囲気を感じることが出来ます。

<p>アン・シリーズより</p> <p>お茶会</p> <p>村岡花子の在学中の東洋英和</p>	<p>(アン)「お茶はすばらしかったわ。パリーの小母さんは、まるであたしがほんとうのお客様みたいで、いいお茶道具を出してくださったのよ、……さうして果物入りのケーキとパウンド・ケーキとトーナッツと二種類の砂糖漬けを食べたのよ」「赤毛のアン」第八章</p> <p>ある朝など勢い込んで走って来た出会い頭に校長先生にぶつかって「ご迷惑」責めて心を落ち着かせなさい」という懲戒処分にはいたずらっ子の私はかなり上級になるまで見舞われた。</p>
<p>罰則 (Go to bed!)</p> <p>奉仕活動</p>	<p>(デイビー)「姉ちゃんの言うのは、お食事なしで、ベッドへやられることだろうか……あんまり、なんともベッドへ入れられたもんで、なれちゃったもん」</p> <p>「アン」第一章</p> <p>校内には「王女会」と「矯風会青年部」が設置された。王女会では貧民学校を設立して慰問に出かけたり、バザーを行い収益金を寄付した。花子は書記として矯風会の会報誌「婦人新報」の編集を任された。</p>
<p>大文学会 (文化祭)</p> <p>人格の基礎を築く教育</p>	<p>(アン)「合唱が六つあって、ダイアナがソロを歌うことになっているの。あたしは二つの対話に出るのよ。『ゴシップ根絶会』というのと『妖精の女王』というの。……それに私は二つの暗誦をするのよ。……それから最後に活人画を見せるのよ」「信仰と希望と愛」というの。」「赤毛のアン」第四章</p> <p>卒業式の校長・ミス・ブラックモアの言葉 「今から十五年、二十年、三十年のちにあなたがたが今日この時代を思い返して、あの時が一番幸福だったと心から思うようなことがあったら、私はそれをこの学校の教育の失敗だと言わなければなりません。人生は進歩です。……若い時代は準備のときであり、その準備の種類によって次の中年時代、老年時代が作られていきます。」</p>

『アン』のゆりかご 村岡花子の生涯 出版に寄せて

私が祖母の評伝を書こうと決心したのは一四年前、最愛の母を亡くした時でした。私には祖母の記憶はありません。母は祖母の書斎を予約制で公開し、折々に思い出を聞かせてくれました。母の死は、幸福な日常の喪失であり、私と祖母とを繋ぐ確かな結び目の喪失でした。出版までの長い準備期間は、私自身のルーツ探求でもあったように思います。

英語が敵性語とされた戦時下、なぜ危険を冒してまで『赤毛のアン』を翻訳しなければならなかったか。本書では、祖母が負った使命(ミッション)を、生い立ち、受けた教育、交友関係、社会背景、時代の感情といった多角的な視点から浮き彫りにしました。

翻訳のみならず、婦人参政権獲得運動や教育制度の改革にも関わった祖母を、戦後のマスコミは「キリスト教的ヒューマニズムに裏打ちされた順風満帆な知識人」などと評したようですが、円満そうな外見とは裏腹に、その人生は波乱に充ちています。時代の厳しさと祖母の内面の激しさを知れば知るほど、この評伝を甘く感傷的なものにしてはならないという覚悟も生まれました。込み上げる愛情を抑制し(それが一番骨の折れることでした)近代を走りぬいた一人の女性として、できる限り客観的に描くことに専念しました。

楽しんで書いたのは祖母の華麗なる交友関係についてです。市川房枝、吉屋信子、林芙美子、宇野千代など、個性際立つ女性たちとの交流。特に華族の身分を捨て、運命の人と添い遂げる柳原白蓮や、芥川龍之介の想い人であり「才力の上でも格闘できる女」と言わしめた片山廣子という英和の大先輩の存在を広く伝えたいと願いました。

今年日本とカナダの外交樹立八〇周年でもありますが、東洋英和の歴史は既に一二四年。政治的な外交開始より四〇年以上も遡る創立を想うと、カナダ宣教師の建学の精神に改めて畏敬の念を覚えます。一ヶ月余りの船旅で日本に渡って来た先生がたの日本の女子教育に対する情熱なくしては、村岡花子訳の『赤毛のアン』はあり得ませんでした。

執筆にあたり、東洋英和女学院、山梨英和学院、静岡英和女学院をはじめ関係者の方々に多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

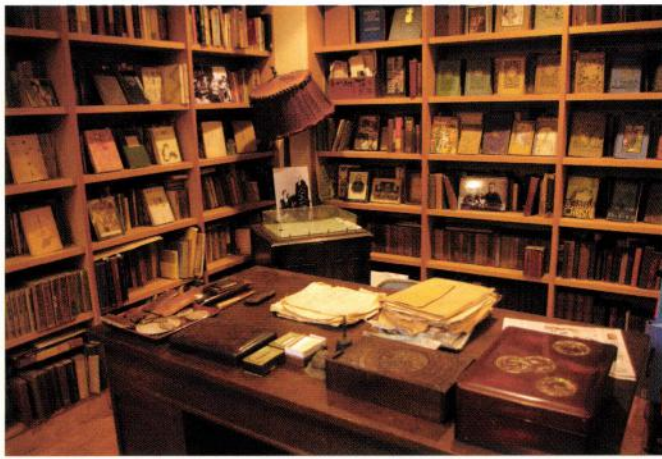


村岡花子の「赤毛のアン」

「赤毛のアン」記念館・村岡花子文庫を訪ねて

東京・大森に「赤毛のアン」記念館・村岡花子文庫」があります。一九六八年に村岡花子が亡くなった後、その書斎は生前のままの状態でご家族によって守られてきました。そして、一九九一年に「村岡花子の著作物や蔵書の保存につとめるとともに、多くの方々に明治〜大正〜昭和と、理想をもって生き抜いた女性がい」ということを知っていただきたい」という花子の長女である村岡みどりさんのお気持ちから、書斎の公開が始まりました。現在の記念館は一九九四年に建て替えられた際に、できるだけ旧来の書斎の形を再現して作られたものです。

記念館に足を踏み入ると、大きな木の机の向こうの壁一面に並ぶ蔵書が目



引きます。戦時中には村岡家の庭先や家の中で焼夷弾が落ちたにもかかわらず、奇跡的に戦禍を免れた本達には力強い生命力さえ感じます。蔵書の一つひとつに目をやると、聖書や英語辞典はもちろんのこと、花の文様の箔押し装丁が美しい洋書はブラックモア先生が花子に贈った『鏡の国のアリス』であったり、交流のあった女流作家達の贈呈文や私信がはさんである貴重な書物が並ぶなど、村岡花子の知性が培われた土台を目の当たりにする気分です。

花子が出版した多くの本も展示され、年代ごとに異なる『赤毛のアン』の表紙が一覧でき、自分達が子どもの時に読んだ童話が村岡花子訳であったことを発見するなど、花子がいかに多くの少年・少女・児童文学に関わる仕事をしてきたかがうかがえます。

そして花子の作業机の上には、『赤毛のアン』を翻訳した際の直筆原稿が置かれています。右上が紙綴りで綴じられ、いく



シェイクスピアからアガサ・クリスティまで。幅広いジャンルにわたる蔵書



「赤毛のアン」翻訳の直筆原稿。愛用品とともに展示されています



村岡花子について語る、お孫さんの美枝さん(左)と恵理さん(右)姉妹。お二人のお話がますます理解を深めます

つもの推敲箇所が赤鉛筆で書き込まれた原稿には、村岡花子という存在を通じて戦争の苦難を超え日本に紹介された『赤毛のアン』という作品の不思議な運命が刻まれています。

記念館は月に二日ほど事前予約制で開館します(二〇〇九年六月までは休館)。お孫さんの美枝さんと恵理さん姉妹から数々の興味深いエピソードをうかがいながらアットホームな雰囲気で見学できます。より深く村岡花子や『赤毛のアン』を知っていただくためにも是非足を運んでいただきたい記念館です。

赤毛のアン記念館・村岡花子文庫

〒143-0024 東京都大田区中央3-12-4
イングリッドサイドハウス大森1階

2009年6月までは休館(全国巡回の「赤毛のアン展」に資料を貸し出しているため)。その後は月に2日ほど予約制で開館。見学希望者はホームページにて開館日をご確認いただき、事前にお申し込みください。

【記念館公式ホームページ】

http://club.pep.ne.jp/~r.miki/index_j.htm

学院史料展示コーナーでも「村岡花子と東洋英和展」を開催しています

六本木校地本部・大学院棟1階にて「村岡花子と東洋英和展」を行っています。年譜にはじまり村岡花子と東洋英和との関わり、今では手に入らない貴重な出版物の数々などが展示されています。是非お立ち寄りください。



『ハックルベリイ・フィンの冒険』『丘の家のジェーン』『フランダースの犬』『クリスマス・カロール』(いずれも新潮文庫版)の著作権は村岡家より学院にご寄附いただいております。印税は毎年、図書購入等教育のために活用させていただいております。この場をお借りしまして村岡家に感謝申し上げます。

授けられた第二の人生

戦争中の英和時代

受験勉強中に、二・二六事件があり、暗い谷間を下ってゆくような時代でしたが、雪が降り、臨時休校にもなつて、ホッと一息、深刻にもならず、入学できた喜びで一ぱいでした。英和の五年間はのびのびとした学生生活でした。初めて習う英語のためのしかなかった事。ミス・キニーは、教科書は使われず、発音を厳しく、会話から教えて下さいました。美しいブラウスの衿の下から、鼻眼鏡を引き出して、ときどきかけられた事。ミス・ハミルトンのお姿が見えないと思つたら、小野直一先生が校長になつて来られた事（ミス・ハミルトンは交換船で帰国された）。長野彌先生が教頭になられ、数学を教えて下さった事。お料理の時間に、本格的なスープの作り方も、もう材料がなく講義だけ。大根やお芋の炊き込み御飯、お出しをとった後の昆布を細く刻み、鰹節も捨てずに入れて煮た事。土曜日は花小金井の農場で、



一九四一年高等女学科卒業 巖谷 貞子（旧姓 吉村）
いわやさだこ
書家・水墨画家。雅号 巖谷春聲（いわやしゅんせい）。一九二三（大正一二）年生まれ。一九三六年東洋英和女学校入学。一九四二年巖谷栄二（児童文学研究者）と結婚。一九六九年死別。一九七一年内山雨海師に入門。主宰の澤人社「墨の芸術展」に出品。一九八二年雨海賞受賞。一九八六年、一九八七年奨励賞受賞。審査員となる。一九九五年澤人社解散により現在は「杜の会展」に出品。

麦刈り、脱穀、大根の獲り入れなど。これは後に疎開した時役立ちました。母子家庭で、父の分も働く母の手伝いをして、勉強に熱中するより、家で読めない本を、図書室で読む方に魅力がありました。暗記ものは得手でしたが、試験の前には理数に強いお友達のお世話になり、特訓をしていただいたものでした。卒業式の後、校舎を去り難く、残っていたお友達の中に居ました。「お家の方に心配かけますよ。」の先生のお言葉で、解散、帰宅。翌年結婚。戦中

感謝一ぱいの人生

来られる先生に入門されたら？」と紹介していただき、四十六年四月に入門。これが第二の人生の始まりでした。

戦後、それは沢山の経験をしました。家事と子育てで手一ぱい。姑は、二年間病臥の後、昭和三十年に逝き、無教会主義の熱心な信者でしたので、式は塚本虎二先生がとり行つて下さいました。三十一年、湘南へ転居。四十四年、七回の入院で夫死去。四十五年東京世田谷の実家の母が一人暮らしの家へ同居。当時東光会に勤務中のクラスメートの後藤さん（旧姓青木さん）担当のバザーのお手伝いをしていた折に、「今ここに教えに

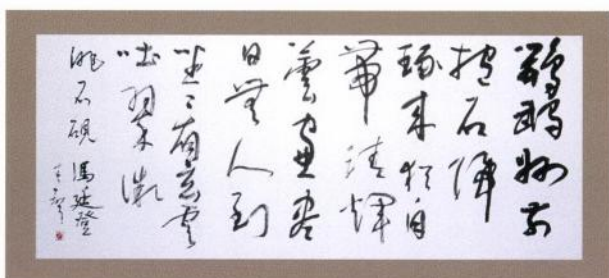
した。先生主宰の澤人社は協議の末存続することになり、毎年の「墨の芸術展」はそのまま続き、平成七年解散するまで出品しました。

その後九年に元審査員六人とお弟子さん達で二十五人の「杜の会展第一回展」を開催、今年十二回展です。

英和の大先輩、雨海門下最年長の、菊水黄羽先生（昭和九年卒）にグループ展を結成する時に六十二年から入門させていただき、以来、六十三年から、「墨の芸術展」に書と共に墨画も出品。グループ展も今年は五月に十一回展、「黄羽会墨画展」は、十一月に十回展です。

又、昨年十月六日から今年一月十日までの期間、巖谷一六・巖谷小波・巖谷栄二夫妻の「巖谷三代展」が由縁の地、高遠の歴史博物館で開催され、私の巖谷家の仕事は終了、これからは余生です。

一番に、この人生を与えられた、天なる神に、そしてお世話になった先生方、お友達、家族に感謝一ぱいの充実した毎日です。



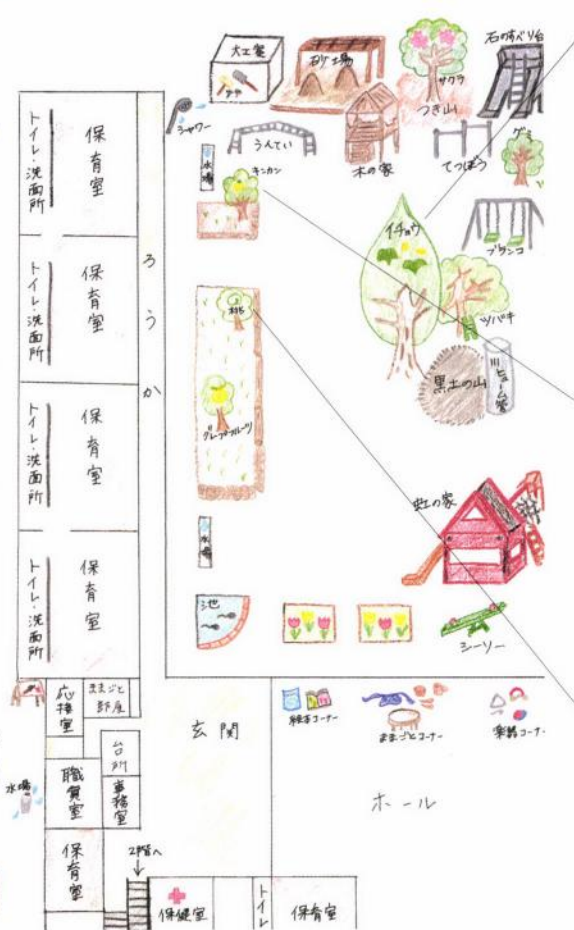
《洗石硯》巖谷春聲

幼稚園の実り

イチヨウ
幼稚園のシンボルのような木。緑豊かな葉を茂らせ、居心地のよい木かげを作ってくれます。たわわに実る銀杏は、おはしで拾って小さな手できれいに洗います。七輪で炒っていただくと格別のおいしさです！そのおすそわけがみなさんのところにも届くでしょうか…

キンカン
可愛らしい実がつくと子どもたちは手に取りたくて仕方ありません。子どもが帰った後は小鳥たちがお味見しています。そのまま食べても、ジャムにしてもおいしいキンカンです。

モモ
色づく頃、鼻を近づけると甘いいい香りがしてきます。おいしくなるのはいつも夏休み。早めに収穫して氷砂糖と一緒に漬けて作ったシロップは冬まで楽しめます。



シイ
頭のとんがったドングリの実を落とし、銀杏と一緒にお味見します。

カキ
庭にカラスが食べたカキの種が落ちると、もう食べごろです！年長組の子どもだけが特別に屋根の上で収穫します。カキジャムも意外とおいしいってご存知ですか…？

ピワ
大きな葉っぱに隠れるように実るピワ。手の届かない実を取るために子どもたちは知恵を絞ります。石の上の上ったり背の高い先生を呼んできたり、棒を使ったり…中高部の先生方がピワ坊、ピワ太郎になってお手伝いに来てくださることもあります。

コイノニア—わかちあう交わり—

アドヴェントに入ると年長組の子どもたちは日頃から祈り覚えている『もう一人の友だち』のことを思っけてクッキーを焼きます。そしてこのクッキーを保護者の方々に買っていただいたお金をクリスマス礼拝で献金します。その中から毎月決まった額をその友だちのために用いられるよう郵便局から送ってきました。

『もう一人の友だち』…かえて幼稚園では長い間、ファイリピンに住む子どもの支援をチャイルド・ファンド・エデュケーションという団体を通して行ってきました。子どもたちは、一人の子どものスポンサーになることで『隣人を覚え祈り合う』経験をしてきました。



「献金のためのクッキーを買って下さい」とクッキーを販売する年長組の子どもたち

ちとお母様方に、「セシリーの里親としてお金を送って下さってありがとうございます。私はセシリーの通う幼稚園の先生です。セシリーは三人兄弟の一番下の子どもです。小さな小屋に住み、一つのベッドに家族みんなで寝ています。水道は無いので、毎朝水くみをし、洗面器一杯の水で、身体や顔を洗い幼稚園に行きます。皆さんの祈りと献金で、幼稚園に通えて、たくさんのお金を学べることを、とても喜んでいきます。セシリーは幼稚園が大好きです」と話して下さいました。子どもたちにとって、この時は、いつもお祈りしている『もう一人の友だち』を、より

近く感じた時であったと思います。

今後も、この交流が主の愛をわかちあう業と信じ、続けていきたいと思えます。尊い体験の機会を与えられていることに感謝します。

二〇〇八年七月二二日。来日されコイノニア アカデミーの設立者である市橋さら先生が園を訪れ、年長組の子どもたち

かえて幼稚園とコイノニア アカデミーとはこれまでも交わりがあり、二〇〇五年には、教師三人がコイノニアを訪ね、二〇〇六年には、ケニアから一人の先生をお迎えし、学び合いました。

大好きな時間「すばなし」

小学部では講師の先生をお招きして、一〇年程前から「すばなし」を国語教育に取り入れています。今ではどの学年でも年二回行われるこの時間を、子どもたちは心待ちにしています。

講師紹介 ● 臼井敬子氏

一九八五年「世田谷区すばなしの会」に入会、現在に至るまで二三年間、講演会活動をなさっています。また、臼井氏は卒業生のお母様でもいらっしゃいます。

おはなしの『心』を届けて

臼井 敬子

私、小学部ですばなしをさせて頂いて、今年で一一年目になります。

「すばなし」とは、絵本の読み聞かせ、紙芝居、朗読とは違い、物語を覚えて何も持たずに子供達の間を見ながら語るものです。

「すばなしをやってみない？」幼稚園で子供達に紙芝居を読んだ折、友人から声をかけられたのが私のすばなしとの小さな出会いでした。よくわからないまま、世田谷区すばなしの会に入会し、とにかく一ヶ月一話おはなしを覚えるスタートを切りましたが、当時は今日のようにすばなしについての手引書も巷になく、暗中模索の日々でした。やがて、図書館・児童館を皮切りに、小学校・幼稚園・中学校へとおはなしを届

けられるようになり、すばなしの奥深さを学びながら、東京子ども図書館の一六期講習生として、松岡享子先生のご指導を頂き、二三年間おはなしをさせて頂き現在に至っております。近年では、おはなしを聞いている子供達の反応を織り交ぜた大人向けの講演会もさせて頂いております。

何故こんなに長く続けられたのでしょうか。それは良き師・良き仲間が勿論のこと、何よりも瞳をキラキラ輝かせて絵も何もなく言葉だけから想像力を働かせておはなしを自分の心の中に描いてくれる素晴らしい子供達の存在があったからだと思います。面白い場面では声をたてて笑い、緊迫した場面では息を詰めて聞き、悲しいところは水を打ったようにシーンと静まり返り、そして聞き終わった時、こんなに素敵なおはなしを頂いてよいかしらと思う程、たくさん笑顔の子供達一人一人から頂いております。毎回本当に楽しい思いをしております。

すばなしをこれまでさせて頂いて印象に残ったことは数多くありますが、こんなことがありました。私のすばなしを聞きながら二人の子が些細なことでもめてしましました。一人の瞳には、涙がこぼれそうでした。既におはなしを語り始めてしまった私は、その二人に声を掛けられず、でも二人に目を配りながらおはなしを続けました。すると、こぼれそうだった一人の子の涙がみるみる引いていくではありませんか。二人とも現実から離れ、おはなしの世界で楽しんでくれ、先程のもめごとを忘れ始め

たのです。おはなしの力って素晴らしいと痛感致しました。

子供達からは「何も持っていないのに絵が見えてきた」「小さな映画館みたいだった」「悲しいときに勇気や元気がもらえる」「アイコンタクトで話してくれるので強く心に残る」「クラス皆で聞けるので共通の話題もてる」等々の感想文を頂き、それを支えにして活動を続けております。

私が何よりも大切にしていることは、『心』を届けることです。「おはなしの心・語り手の心・母の心」を講演会の題目にしていきますが、おはなしをする時に発生する語り手と聞き手の間に生まれる何とも言えない空間を共有しつつ、子供達の心に寄り添い、触れ合いながら、語り、また心で受け止めてくれる子供達の健やかな成長を願いながら、これからもおはなしを語ってゆきたいと思っております。



すばなしに登場したお話

七羽のからす	グリムの昔話より
金の髪	コルシカの昔話より
ついでにペロリ	デンマークの昔話より
森の中の三人のこびと	グリムの昔話より
かにかにこそこそ	日本の昔話より
森の花嫁	フィンランドの昔話より
アナンシと五	ジャマイカの昔話より
ユルマと海の神	フィンランドの昔話より
六人男世界のをし歩く	グリムの昔話より
1つ目2つ目3つ目	グリムの昔話より
はらぺこピエトリン	イタリアの昔話より
青いあかり	グリムの昔話より
悪魔とその弟子	ブルガリアの昔話より
耳なし芳一	松谷みよこ
わたしは麻虫	創作
王さまノミを飼う	スペインの昔話より
ラプンツェル	グリムの昔話より
幽霊をさがす	マーガレット・マーフィー

5年生の感想より

いつもお話を聞くのを、とても楽しみにしています。なぜなら、先生のお話は、テレビやえい画のような画面がなく、お話だけなのに、物語の様子がすごくよく想像できて、いつも夢中になってしまうからです。まるで、魔法のようです。私も、ちょっぴり先生のまねをして、本を表現力ゆたかに、声に出して、読んでみようと思います。またお話をしに来て下さい。楽しみにしています。(池田杏梨)

うすいさんには、すばなしを何回もしていただいています。毎回うすいさんのお話を聞くと、静かな気持ちになります。それも、うすいさんの声のパワーなのではないか、と思っています。いつもすばなしをして下さって、とても感謝しています。(鈴石ゆり菜)

最後になりましたが、小学部に暖かく迎えて下さり快く授業のお時間を下さった寺澤東彦前部長先生・山本香織部長先生・諸先生方に心より御礼申し上げます。

Anneの島を訪ねて



グリーン・ゲイブルス



アンのパフスリーブ



Edward
d

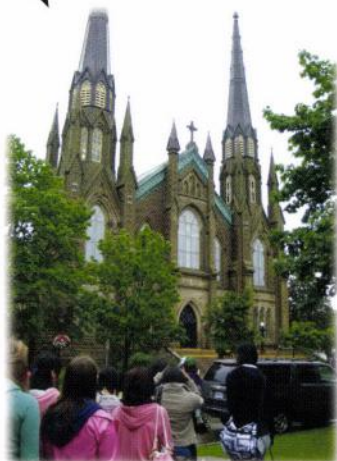
Charlottetown



海辺のバイブルキャンプで
子供たちと遊びました



アンの記念スタンプを
押ししてくれる郵便局



街中で一番背の高い建物
St. Dunstan's Basilica

今年もカナダ語学研修旅行が7月18日(金)～8月8日(金)に行われ、高二が3名、高一が31名参加しました。研修先はニアガラ・カレッジ(Welland, Ontario, Canada)、8月1日以降は『赤毛のアン』出版100周年に沸くプリンス・エドワード島(PEI)にホームステイしました。PEIでの英和生の夏をご紹介いたします。

プリンス・エドワード島での語学研修スケジュール	
8/1(金)	8:40 トロント発 11:45 シャーロットタウン到着 (Moynaさんの出迎え) バスでダウンタウンに到着後、教会に荷物を預けてモールで食事 Founder's Hall 見学 教会でホストファミリーと顔合わせをしてホスト宅へ
8/2(土)	午前 PEI大学見学(図書館のモンゴメリー研究者のレクチャーを受ける) 午後 バスで有機農法のベリー園へ行きベリーピッキング ホストファミリーと過ごす
8/3(日)	終日
8/4(月)	午前 州議事堂見学後、『赤毛のアン』の記念展をConfederation Centerで見る 昼食 Quebecの学生たちによる歴史劇を鑑賞しながら 午後 シニアホーム訪問
8/5(火)	終日 『赤毛のアン』ツアー Green Gables、モンゴメリーのお墓、郵便局、Cabendishビーチ、博物館、アヴォンリーヴィレッジ訪問
8/6(水)	午前 地元の中高生とダウンタウンツアー(スカベンジャーハント) 午後 南海岸へ移動し、バイブルキャンプの子供たちと交流会。教会で修了式
8/7(木)	4:30 シャーロットタウン空港集合。6:00発トロント経由で成田へ
8/8(金)	15:05 成田着。解散

プリンス・エドワード島(PEI)はカナダの東のはじっこ

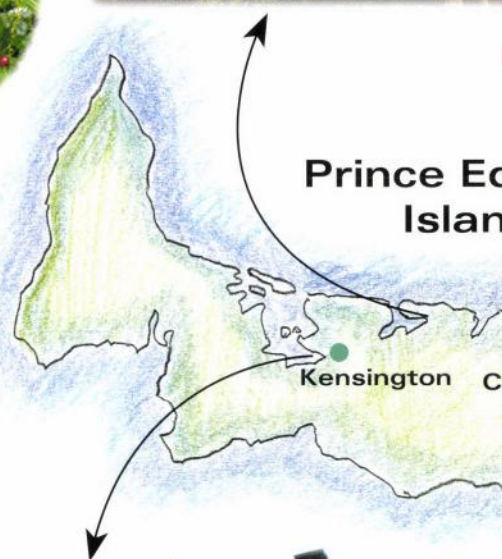


モンゴメリーが生まれた部屋





アンと登場人物たち



語学研修に参加した生徒の感想より

私が『赤毛のアン』を読んだのは、もう大分昔のことだ。しかしその時は幼いながら、「グリーン・ゲイブルス」や「輝く湖水」、「プリンス・エドワード島」という“アンがいる世界”に憧れたことを、今でも覚えている。

今回のカナダ語学研修で私がプリンス・エドワード島を訪れることができたのは、今年が“Anne of Green Gables”が出版されてからちょうど百年だという偶然による。私は一週間をこの島で楽しく過ごし、アンやこの本の作者、L.M.モンゴメリーに色々な経験で触れることができた。

プリンス・エドワード島での5日目、私達は赤毛のアン終日ツアーを行い、グリーン・ゲイブルスを始め“Anne of Green Gables”に関係する様々な場所を訪れた。グリーン・ゲイブルスは、本や映画の通りの美しく大きな家で、ゆっくりと見て回る時間がなかったものの、忠実に再現されているアンの部屋などは、しっかりと見ることができた。

次に訪れたのは『赤毛のアン』の中に出てくる町、アヴォンリーを再現した町並みで、アンの通った学校、店、教会などを見るのはとても面白かった。アヴォンリーの人々の服装をしたり、アンやギルバート、マシューの格好をした人達と写真を撮ったりと、ここでしかできないような経験が数多くできる場所だった。『赤毛のアン』を好きな人には是非行ってもらいたい場所である。

それから私達は、作者L.M.モンゴメリーの生家を訪れた。モンゴメリーは1874年の11月30日にこの家で生まれ、人生で20の作品を残している。1908年に出版された“Anne of Green Gables”は中でも大ヒットした作品で、36もの言語に翻訳され、今でも人々に愛され続けている。彼女の生家もまた、グリーン・ゲイブルスのように緑色の屋根だった。あまり広いとはいえないが清潔感のある可愛らしい家で、この場所で『赤毛のアン』が生まれたのだと思うと、何か言ひようのない嬉しさを感じた。

プリンス・エドワード島は美しい場所だった。あいにくこの一週間は天気恵まれなかったのだが、モンゴメリーやアンのような素晴らしい想像力を育てるには、最適の環境だということが分かった。

今回は“おばけの森”や“恋人たちの小径”を訪れることはできなかったので、次の機会があれば是非訪れてみたいと思う。

プリンス・エドワード島でのびのびと過ごした一週間は、私にとってかけがえのない経験、思い出となった。いつかこの日々を思い出しながらもう一度、『赤毛のアン』を読んでみたいと思う。

高等部一年 金子結衣



マシューがアンを迎えに来た駅

”永田町”インターンシップ

国際社会学部教授 増田 弘

私のゼミでは七日程、三年生向け国会議員秘書インターンシップを実施している。一週間にすぎないが、その成果は絶大である。政治の中心「永田町」での体験は、彼女達の甘い政治認識を一変させる。政治家が早朝から勉強会・調査会等で議論を重ね、分刻みで汗を流す姿に目を奪われるからだ。しかも事務所には各界の様々な来客がある。責任もって対応しなければならぬ。学生という言葉は許されない。緊張感に苛まれながらも、インターンをやり遂げた満足感がゼミ生から等しく伝わってくる。この貴重な経験を学問と実社会で生かしてほしいと願っている。



国会議員秘書を体験して

斉藤杏沙 (自民党・宇野治事務所)

私は、秘書のお仕事のお手伝いよりも、「国会でしか体験できないことを勉強してほしい」という秘書の方のご厚意に甘えて、多くの部会や会議を傍聴する機会を得ることができた。議員の方々が意見交換する場面や、様々な問題や障害をどう乗り越えるかといった苦労など、今まで知りえなかった政治の現実を見聞することができた。

国会に対する私のイメージは、この五日間で大きく変わった。これまでの政治家についての知識は表面的にすぎず、実際の政治家は多くの資料と議論を繰り返して、国民のために法律に結びつけようと日々努力していることを知った。改めて私自身にできることは何であるのかと考えさせられたと同時に、自分の知識のなさを痛感し、とても悔しく感じられるところもあった。わずかに五日間であったが、非常に刺激に満ちた、自身の濃い時間になった。この貴重な経験を生かし、今後は自分に必要な知識や多くのことを身につけようと思う。

水谷知紗子 (自民党・永岡桂子事務所)

私の主な議員秘書の仕事は、電話の応対や郵便物の整理、来客への対応、朝の部会に出ることであった。地味な仕事であり、誰にでもできそうと思われるだろうが、実は秘書の評価がその国会議員の評価に直結する。私はそのことを強く意識して、他の議員や秘書の方、地元の人々等への対応では、「元気に・丁寧に・礼儀正しく」を心掛けるようにした。しかし、戸惑うことも多く、もっと細かいところまでの心遣いができるようにするべきであったと反省点が多い。

またもっとも衝撃を受けたことは、政治が権力の上に成り立つのではなく、一般の人々の上に成り立っているということである。秘書を含め政治家すべては、選挙区の代表として理想を実現させるため、礼儀と人との繋がりを第一として足を使って忙しく動いている。その姿勢を間近に見ることで、より政治に興味を持ち、選挙における一票一票の重みを深く感じることができた。

木村もも香 (自民党・富岡勉事務所)

富岡先生の事務所で一週間、様々な経験をさせていただいた。政治家や、議員秘書という仕事は、自分にとって遠い存在であり、自分が体験することは無いと思っていたので、貴重な体験であった。議員秘書の仕事を通して、議員の先生方の多忙さにはとても驚いた。毎日のスケジュールが分刻みで決まっており、会議や会食など移動がきわめて多く、また地元と東京の往来でほとんど休みはない。本当に大変な仕事なのだと思えた。

そして議員の先生は、政治に強い情熱を持っていることを痛感した。働く場合、仕事に対する情熱がいかに大切かを教わった。今後、私も社会へと進む上で、自分自身がやりがいや情熱を絶やさない仕事に就きたいと強く思った。

野地麻希子 (自民党・宮腰光寛事務所)

私はこれまでアルバイト程度しか実社会を知らず、「学生」という枠内で過してきた。しかし今回は「学生」ではなく、「社会人」として五日間を過ごさせていただいた。その社会人には、私が今まで知らなかった大きな責任感が伴っている

ことを知った。何より、私たちの生活の基盤を作り上げている政治の現場に立つという貴重な体験を通じて、自分自身の政治に対する新たな知識を吸収したばかりでなく、社会人としての意識や責任とはどういうものかを体験できた。

具体的な仕事は、資料の配布、本会議傍聴のための手続き、来客へのお茶出し、資料作り、コピー、電話かけ、電話応対などであった。毎日新しい発見ばかりで、緊張感と戦いながらも、新鮮で充実した毎日過ごすことができた。この経験を踏まえ、今後の大学生活において様々なことにチャレンジし、磨かれて、社会に出ても恥ずかしくないような大人になりたいと心から感じた。

村上 麻実 (自民党・七条明事務所)

今回の国会議員秘書インターンシップに参加して本当によかったと感じている。議員の方が国民のためにどのようなことをどのように努力されているのかを、多少ではあるが観察できたからだ。政治を身近に感じた一週間であった。このインターンの体験によって、今まで以上に毎日のニュースや新聞記事に対して興味を持つようになった。同時に、仕事の責任の重さも実感することができた。このようなことは学生の間にはなかなか経験できないと思う。改めて私自身に何が足りないのかを知ることができ、自分の未熟さを認識する良い機会となった。

今回のインターンシップで経験したことは、今後の私の生活に大きな影響を与えることは間違いない。私は、単に影響を受けるだけでなく、それにより自分が成長できるように努力することをこのインターンシップを通して学んだ。そのことが最大の成果であると思う。

「麻布学」と「横浜学」の開設

国際社会学部教授 伊勢紀美子

生涯学習センターが開設一〇周年を迎え新しい方向性を出すため、受講者と共に地域に根ざした研究をする講座が開設された。六本木校地の「麻布学」と横浜校地の「横浜学」である。「麻布学」は二〇〇七年から港区の要望で港区民大講座として筆者をコーディネーターに開講された。「横浜学」は二〇〇八年から本学下坂英教授をコーディネーターにして始められた。

麻布は時代ごとに異文化と接しながら歴史を刻んできた。この麻布に生きた人々の人生や変容し続ける町から、現代社会で起る異文化接触の新しい文化モデルを見出すとする試みである。昨年の「麻布学」は「赤い靴はいた女の子」のきみちゃんが主役で、麻布十番の広場に立つきみちゃんの少女像に寄せられた浄財がユニセフ基金となり、国際的役割を果たしている物語に受講者一同感動した。

今年六本木西地区再開発問題が「麻布学」への関心を高めたようで、百名に近い受講者が集い、「建築」と「墓地」から見る歴史の研究方法を修得しながら、国際的文化交流の町「麻布」を学んだ。

●麻布学・横浜学の講座内容

2007年度 麻布学 (1)		
麻布商店街の「赤い靴はいた女の子」像	本学教授	眞理ヨシコ
麻布教会・鳥居坂教会ときみちゃんの永坂孤女院	鳥居坂教会牧師	張田 眞
麻布十番商店街の今昔と未来	麻布十番商店街振興組理事長	須永達雄
麻布山善福寺のハリスの通訳ヒュースケンと伝吉—幕末の通訳—	本学教授	伊勢紀美子
横浜から麻布へ—HSパーマーと近代日本—	本学教授	下坂 英
2008年度 麻布学 (2)		
鳥居坂界隈、岩崎小彌太郎から国際文化会館へ	国際文化会館顧問 理事	松本 洋
青山墓地に眠る外国人	国際基督教大学教授	M. William Steele
20世紀の六本木・麻布界隈の外国人居住者—その移り変わり—	本学教授	Patricia Sippel
安藤記念教会の歴史—安藤太郎・文子—	安藤記念教会牧師	佐野英二
カナダ婦人宣教師たちと麻布—東洋英和女学校、永坂孤女院、鳥居坂教会—	本学教授	伊勢紀美子
麻布中学・高校の歴史—創立者江原素六を中心に—	麻布中学・高等学校校長	水上信廣
2008年度 横浜学		
横浜の発展とお雇い外国人	本学教授	下坂 英
明治初期の横浜におけるキリスト教	横浜海岸教会牧師	久保義宣
横浜キャンパスの植物	本学非常勤講師	中池敏之
横浜の文学博物館	本学教授	与那覇恵子
横浜と「赤い靴はいた女の子」	本学教授	眞理ヨシコ
横浜と大阪—近代化の歩みの中で—	元本学教授	中林隆明
外国人の見た明治の横浜	本学教授	下坂 英

死生学研究所 2008年度〈公開〉研究会・連続講座 「語られる生と死 II」

日程 (土曜日)		発表者	所属	題目	
2008年 12月20日	14:30~16:00	第6回研究会	ミリアム・ブラック	本学人間科学部准教授	One child's understanding: A description of Helen Keller's first encounters with death (日本語訳あり)
	16:30~18:00	第7回連続講座	古川のり子	本学国際社会学部教授	誕生と結婚と葬送の民俗
2009年 1月10日	14:30~16:00	第7回研究会	山下 久美	本学人間科学部専任講師	幼児の死生観—幼稚園での虫との関わりの研究から—
	16:30~18:00	第8回連続講座	坪井 龍太	本学人間科学部准教授	死の教育と公共性の視点
1月24日	14:30~16:00	第8回研究会	小林 能成	本学人間科学部准教授	心の科学・脳の科学からいのちについて考える
	16:30~18:00	第9回連続講座	林 文	本学人間科学部教授	「宗教心」を測る
2月21日	14:30~16:00	第9回研究会	吉岡 良昌	本学人間科学部教授	E. H. エリクソンとスピリチュアリティ
	16:30~18:00	第10回連続講座	三上 章	本学国際社会学部准教授	ソクラテスとイエスにとって死は何を意味したか?—プラトンのソクラテスと福音書記者ヨハネのイエスの場合—
3月7日	16:30~18:00	第11回連続講座	山田 和夫	本学人間科学部教授	小林秀雄の病跡と死生観

●会場 東洋英和女学院大学大学院 (六本木校地)

●参加費無料 ●申込不要 ●当日先着順100名様

●問合せ先 東洋英和女学院大学 死生学研究所 〒106-8507港区六本木5-14-40 03-3583-4035 (Fax専用) shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

現代史研究所 2008年 連続研究講座 「世界の危機と紛争」

	日程	時間	テーマ	講師
第6回	11月21日 (金)	14:50~16:20	日中紛争	望月 敏弘 本学 国際社会学部 教授
第7回	12月5日 (金)	14:50~16:20	アフリカ紛争	武内 進一 アジア経済研究所 主任研究員

●会場 東洋英和女学院大学 (横浜校地)

●参加費無料 ●申込不要 ●当日先着順300名様

●問合せ先 東洋英和女学院大学 現代史研究所 〒226-0015 横浜市緑区三保32 045-922-7272(Tel・Fax) gendaiken@toyoeiwa.ac.jp

※2009年度は「グローバル化が変える世界像」というテーマで5月より7回の連続講義を予定しています。

東洋英和
幼稚園



年長組キャンプ 森の王様と踊りを楽しめました

- 春の遠足 6月4日(水)
年長組、年少組の母子で金沢八景海の公園へ行きました。貝拾いや、岩場に隠れるヤドカリ、カニ探しなど親子で夢中になりました。
- 父母の会講演会 6月7日(土)
「私の生き方」中村メイコ氏
- いちょうの木献金セール
6月27日(金)
今年もお母様方のお働きにより、たくさんのお客様をお迎えすることができました。
- 年長組キャンプ
7月9日(水)～11日(金)
年長組の子どもたち、全教師で追分寮へ二泊三日のキャンプにかけました。キャンプファイヤーやお楽しみ会、自分の森への散歩など、自然の中でゆったりとした時間を過ごしました。

大学付属
かえで
幼稚園



夕涼み会—歌えや踊れ—

- 歯科健診 6月12日(木)
- 父親講演会 6月28日(土)
子どもたちの歯の健診をしてくださる園医の元開富士雄先生がお父様方に「子どもの口を通してみるこころと身体」という題でお話をしてくださいました。
- 3歳児たのしみ会
一学期終業礼拝
7月17日(木)
- 4・5歳児一学期終業礼拝
7月17日(木)
- 4・5歳児夕涼み会
7月18日(金)
夏休み前夜、お店めぐりやゲーム・踊り・花火を共に楽しみました。
- 大掃除 8月26日(火)
二学期を前に、保護者と子どもたちと一緒におもちゃを拭いたり、草むしりをしたりと、汗を流して働きました。

小学部



歯磨き指導

- 運動会 6月2日(月)
雨で順延しましたが、青空の下、子どもたちは元気に校庭を駆け回り、歓声が響き渡りました。
- 親子コース別集会 6月5日(木)
登下校が同じ方面の親子で集まり、親交を深めながら登下校の安全について確認しました。
- 四年生 追分の生活
6月11日(水)～13日(金)
他の学年は夏休みに行います。
- 歯磨き指導 6月20日(金)
二・五年生はクラス担任から、一年生と六年生は歯科医師から、歯磨きの仕方や歯の大切さを学びます。
- 鑑賞の日 6月27日(金)
和太鼓チーム「鼓粹」を招き、和太鼓の演奏を聞きました。
- 心と体の勉強会 7月3日(木)
講師の先生からネパールの子どもたちのお話を伺いました。

中高部



高一カンファレンス

- 高一カンファレンス
6月19日(木)～20日(金)
恵みシャレー軽井沢にて藤盛勇紀牧師(藤沢北教会)をお招きしディスカッションをしました。
- 中学部合唱コンクール
6月27日(金)
最優秀賞は中3-2組、4組の二クラスが受賞しました。
- 高等部球技会 6月27日(金)
バスケットボール、バレー、卓球のクラス対抗試合で、高三一組が総合優勝しました。
- 中2夏期学校前・後期(野尻湖)
7月22日(火)～29日(火)
- 訓練キャンプ(野尻湖)
7月30日(水)～8月2日(土)
- キャンプ(野尻湖)
8月2日(土)～8月7日(木)
- 夏期修養会(追分寮)
8月4日(月)～6日(水)

大学
大学院

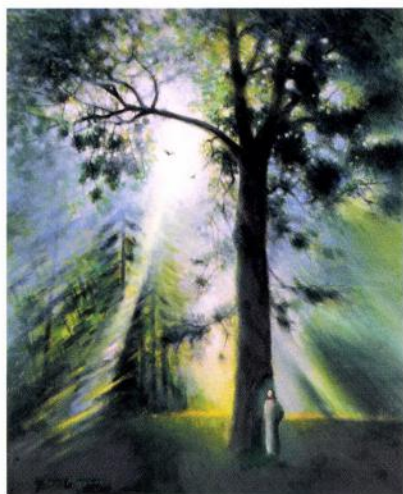


オープンキャンパス—キャンパスツアー—

- (大学)
●保護者との懇談会
6月7日(土)
参加教員が保護者と個別に懇談する時間もあり、熱心に質問や要望を述べてくださいました。参加保護者一八九名。
- オープンキャンパス
6月15日(日)、7月26日(土)
8月23日(土)
学部学科ガイダンス、在学生によるキャンパスツアーや相談、教職員による個別相談、教員によるミニ授業、小論文講座、学食体験など多彩なプログラムでした。
- (大学院)
●後期入学試験
7月5日(土)
人間科学研究科(臨床心理学領域を除く)、国際協力研究科
入試説明・相談会
7月26日(土)

絶えず祈りなさい

テサロニケの信徒への手紙一 五章一六節



「あさかぜしずかにふきて」 松岡裕子作

「祈りは魂の呼吸」と言われることがある。この言葉には少なくとも二つの意味がある。ひとつは、意識せずに行っている呼吸のように祈りは自然なものだということ。もうひとつは、呼吸をしないと死んでしまうように、祈りはそれほど私達にとって大切なものだということがある。

パウロは、祈りがそのように重要なものであることを良く知っていた。だからこそ彼の手紙を読むと、所々で祈ることが勧められている。今日の聖書の言葉もそのひとつである。

とは言うものの、私達の人生ではなかなか祈れない時もあると思う。P・T・フォーサイスはそれに答えて言っている。「私は祈ることができない。祈る気持ちになれない」などと言ってはならない。祈る気持ちになるまで祈ると良い。」

今日の聖句を通して改めて祈りの重要性を心に留め、絶えず祈る者になりたいと思う。

中高部聖書科教諭 高橋貞一郎

小学部のシンボル、「タイサンボク」を訪ねました

幹の太さは一四〇センチ、小学部の校庭にでんと構えるタイサンボク。この木は一九五九(昭和三四)年頃に卒業記念として植樹され、今では小学部生に最も親しまれている木です。学院の総合案内や小学部のホームページでも紹介されているこの木は、かなり印象的なのか、「あの木に登りたくて東洋英和に入学しました」というお話も聞きます。

小学部では三年生からタイサンボクに登ることが許可されます。それまで我慢を重ねた子ども達は、三年生になると開口一番、「先生、タイサンボクに登っていい？」と聞くそうです。気持ちばかりがはやる子ども達が、登ったはいいものの降りられなくなったり、真つ逆さまに落下したりしては大変なので、先生方か

ら木登り指導が入ります。列をなして木に登る下級生に上級生は自分達の指定席であつても場所を譲りません。子ども達はタイサンボクを通して、かつての自分の姿を思い、知らず知らずのうちに自分より小さな子に譲ることを学んでいくようです。夏は木陰の涼しさに、冬は木の温もりに、子ども達は寄り添っていきます。



休み時間になるとタイサンボクに集まります



六本木ヒルズと立派に張り合っています



タイサンボクの実。タイサンボクは英名「マグノリア」。白い花が春に咲きます。小学部の「マグノリアコンサート」は、この木の名前からつけられました

東洋英和楓の会の主旨と規約について

東洋英和のさらなる発展を願って

理事長・院長 池田守男

このたび学院をお支えくださっているすべての方々にご参画いただけるような協力組織として、同窓会・後援会・母の会役員、理事・評議員の方々の承認を得まして、「東洋英和楓の会」を発足する運びとなりました。東洋英和は創立者であるミス・カートメルをはじめとする多くの方々の篤い祈りをもって、今日まで二二〇余年にわたる教育の業を行って参りました。

現在、私立学校を取り囲む社会状況は、少子化をはじめ、厳しいものがございます。ここでさらに学院の存立基盤を強め、教育の一層の充実を図るため、東洋英和に連なる在校生・同窓生とご家族、学院関係者などが、末永く東洋英和女学院と深い絆でつながり、学院とともに手を携えてくださるよう、皆様のご協力、お支えを賜りたく、新しい組織を作らせて頂きました。

「楓の会」会員相互の交流の場を設け、会員の方々に喜んでいただけるような、有機的な組織となるよう努めて参ります。

キリスト教の精神を基盤とした心の教育にこれからも力を注ぎ、建学の精神である「敬神奉仕」の具現化に全力をあげて参る所存でございます。このことをご理解いただき、お一人でも多くの方々のご賛同を賜りたく、ここにお願ひ申し上げます。

東洋英和楓の会 設立目的（主旨）

本学院は、カナダ婦人宣教師ミス・カートメルによって一八八四年に創設されました。当初生徒二名、教師四名をもつての開校でしたが、以来一二四年の間、学院は「敬神奉仕」のキリスト教精神に基づく「女子教育」を推進し、今や幼稚園（二施設）、小学部、中学・高等部、大学・大学院までも備えた学院へと成長発展し、現在の園児・児童・生徒・学生数は四三〇〇名余に、また卒業生二万余名が国の内外で各自与えられた道を誠実に歩み、賜物に応じた良き活動をしていらつしやいます。これには、後援会・保護者の皆様、学院内外の支援者の方々の物心両面にわたる大きなお力添えにより、その教育的伝統を支えられ、教育機関として社会的な評価を得て今日に至りました。そのこと覚えてここに深甚の感謝を申し上げる次第です。

さてこのたび、私どもは「東洋英和楓の会」（以下「楓の会」）を設立いたしました。現在、同窓生達は家庭において、さらには教育・学術・医療・報道・商業・産業・経済、法曹・政治・芸術・文化・スポーツ・福祉・宗教、奉仕活動等の場におい

て、東洋英和の精神と愛校心をもつて、誠実に生き、人生の課題と使命に取り組み活躍していらつしやいます。「楓の会」は、国の内外・各地

各支部で良き活動が続ける卒業生達に、これまでもまして母校との交流ならびに同窓生相互の活動と情報の交流や共励の関係を豊かにして、各自が良き人生を生き、また時代と社会が必要とする意義ある役割に仕えることを目的といたします。同時に、学院教育の良き理解者・支援者の方々と東洋英和女学院が共に教

養・芸術・文化や有用な情報等を分かち合える、有機的な連絡・協力会組織たることを目指しております。そして、以上の目的と活動の具体化のために、「楓園」の会員への配付や有用な情報サービス、学院の発展のための行事や事業への協賛その他の具体的な活動を行います。

カナダの宣教師達の信仰による使命感と教育愛に発する東洋英和教育の良き伝統が、現在と将来に向かってさらに充実し前進することを願う「楓の会」設立の趣旨をよろしくご理解ください。同窓会と後援会・保護者、学院関係者、各界有為の皆様方のお力添え、御入会・御賛同を賜りたく、お願ひ申し上げます。

東洋英和楓の会 設立起案書概要

I 名称 東洋英和楓の会

II 目的

(1) 東洋英和女学院の教育の充実と発展を物心両面にわたり維持促進し、敬神奉仕の精神に根ざす人間の涵養と、社会の中に有為有用な役割を果たす人格・人材を送り、人と人とに伝え喜ばれる教育機関たることをめざす。そのために、

(2) 卒業同窓生と学院との交流、家庭や社会における同窓生達の諸活動と情報の交流と共励を高めること、並びに

(3) 保護者後援者・学院関係者方のお力添えと各界有為の方々の御理解とご支援を仰ぎ、学問・教養・文化及び有用な知識・情報を分ち合い、英和教育のさらなる充実と発展に向けて相互の協力を促進する。

(4) 「楓園」の定期的発行と会員への配付や学院の発展推進のための行事・事業への協賛その他の活動を行う。

（文責「東洋英和楓の会」企画推進委員会）



東洋英和楓の会は2009年4月より本格的な活動を開始する予定です。

詳細については東洋英和楓の会準備室 Tel 03-3583-3354（直通） kaedenokai@toyoeiwa.ac.jpにお問い合わせください。

(名称)
第1条 本会は、東洋英和風の会と称する。

(目的)
第2条 本会は、東洋英和女学院(以下、学院という)後援会の資金協力をもって運営のための原資とし、会費、募金及び寄付金等と呼び掛けることにより学院の教育の充実をはかるとともに、会員相互の交流と学院への一層の理解促進に寄与することを目的とする。

(本会の位置付け)
第3条 本会は、同窓会及び後援会を始めとする学院関係諸団体を統括する組織であり、各団体は入会后、原則として本会の公認団体として活動するものとする。

(会員)
第4条 本会は、次の会員をもって構成する。
(1) 一般会員 同窓会会員、後援会会員、その他の学院出身者、教職員(旧・現)
(2) 特別会員 卒業生の保護者及びその家族、又は在学生の保護者を除く家族(祖父母等)、企業等の法人
(3) 賛助会員 個人会員(推薦に基づく)、学院関係者
(4) 終身会員 企業等の法人以外で規定の会費を納入した者

(会費)
第5条 本会会員は、次の会費を納入する。
(1) 一般会員 一般会員の会費については、別に定める。
(2) 特別会員
ア 卒業生の保護者及びその家族、又は在学生の保護者を除く家族(祖父母等)の会費は、年額一口3000円以上とし、毎年継続的に納入するものとする。
イ 企業等の法人の会費は、年額一口1万円以上とし、毎年継続的に納入するものとする。
(3) 賛助会員 個人会員(推薦に基づく)及び学院関係者の会費は、年額一口3,000円以上とし、毎年継続的に納入するものとする。
(4) 終身会員 企業等の法人を除く第1号から前号までの会員で、30万円以上を一括して納入するか、若しくは分割納入の額が30万円を上回った場合とする。

(会費等の帰属)
第6条 本会の呼び掛けによる会費、募金及び寄付金等は学院に直接納入され、その帰属は学院とする。

(本部の設置)
第7条 本会本部は、学院本部内に置く。

(会長、副会長、役員、顧問及び監事)
第8条 本会に次の会長、副会長、役員、顧問及び監事を置く。
(1) 会長 1名
(2) 副会長 10名以内
(3) 役員 50名程度(内5名を常任役員とする。)
(4) 顧問 2名
(5) 監事 2名

(副会長、顧問、役員、常任役員及び監事の委嘱)
第9条 会長は、理事長がこれにあたる。
2 副会長、役員、顧問、常任役員及び監事は会長がこれを委嘱する。

(会長、副会長、役員、顧問及び監事の任期)
第10条 会長の任期は、理事長の任期とし、その他副会長、役員、常任役員、顧問及び監事の任期は原則として2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会長、副会長、役員、常任役員、顧問及び監事の職務)
第11条 会長、副会長、役員、常任役員、顧問及び監事の職務は、次のとおりとする。
(1) 会長は本会を代表し、会務を統括する。
(2) 副会長は、会長を補佐する。会長に事故あるときは、予め定めた順位に従って、その職務を代行する。
(3) 役員は、会長の指示に従い、本会会員の増強に協力する。
(4) 常任役員は、会長の指示に従い、会務の執行に協力する。
(5) 顧問は、本会の活動について会長の諮問に応ずる。
(6) 監事は、本会の活動及び会計について監査する。

(会長、副会長、役員、常任役員、顧問及び監事の待遇)
第12条 会長、副会長、役員、常任役員、顧問及び監事は、無報酬とする。

(役員会)
第13条 本会に役員会を置く。
2 会長は、臨時を除き原則として年1回役員会を招集し、その議長となる。
3 役員会は、会長、副会長、役員及び監事をもって構成し、本会の会務執行について審議及び決定する。
4 役員会の審議事項は役員総数の4分の3以上の出席又は委任状提出による出席役員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは議長が決する。

(常任役員会)
第14条 本会に常任役員会を置く。
2 会長は、必要に応じて常任役員会を招集し、その議長となる。
3 常任役員会は、会長、副会長、常任役員及び監事をもって構成し、本会の会務執行について役員会に諮問する。
4 会長は、必要に応じて常任役員会に役員及び顧問を出席させることができる。

(総会)
第15条 本会は、毎年1回総会を開催し、会員に対し活動状況、事業計画及び会計報告を行うものとする。

(募金等活動)
第16条 本会において通常の会費徴収の他に募金呼び掛け等の活動を行う際には、役員会及び理事会の承認を得なければならない。

(会計年度)
第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(事務)
第18条 本会の事務は、法人事務局が担当する。

(改廃手続)
第19条 この規約の改廃は、役員会の議を経て理事会の承認を得なければならない。

附 則
この規約は、2008(平成20)年6月1日から施行する。
附 則(2008(平成20)年10月24日改正)
この規約は、2008(平成20)年10月24日から施行し、2008(平成20)年6月1日から適用する。



の純益八六万円を学院にご寄附いただきました。この場をお借りしまして、ご協力ご参加くださった皆様に篤く感謝申し上げます。

チャリティコンサート
Music and Artをあなたに
秋の風も涼やかな一〇月三日(金)の宵、赤坂の霊南坂教会でチャリティコンサート「Music and Artをあなたに」が開催されました。このコンサートは、「東洋英和風の会」が発足するに際し、同窓生であり学院の評議員でもある画家の松岡裕子先生が「楓の会」を応援しましょう、との呼びかけで企画されました。
当日はたくさんの学院関係者が集う中、バッハやヘンデルの宗教曲や「アニーローリー」などが演奏され、演奏に合わせて松岡裕子先生の宗教画がスライドで映し出されました。教会という空間で、音楽と絵画と客席が一体となり、心暖まるひと時を共に過ごしました。アンコールでは校歌を一同で歌い、幕になりました。コンサートと、同時開催のバザールの純益八六万円を学院にご寄附いただきました。この場をお借りしまして、ご協力ご参加くださった皆様に篤く感謝申し上げます。



西村信子氏 1986年より本学院に職員として就職、短期大学時代を含め、20年以上にわたりご奉職いただきました。2008年7月10日永眠

追悼 西村信子氏 (大学キャリア就職課職員)
大学人間科学部教授 島 創平
私と西村さんのお付き合いは、英和の短期大学時代にさかのぼる。当時西村さんは、教務部に勤めておられた。後に私自身、短期大学の教務委員を務めた時もあり、西村さんとは職務上の問題だけでなく、かわいがっておられた猫の事や、外国人留学生のホームステイを受け入れられた事など、いろいろお話をするようになり、また西村さんお手製のパンをいただいたこともあった。
今年度、私は初めて就職委員長を務めることになり、いささか不安もあったが、他方キャリア就職課で活躍しておられた西村さんと、再び一緒に仕事ができるようになったことは非常に心強く、また嬉しくもあった。それだけにこんなに早く、西村さんとお別れしなければならぬ時が来ようとは思ってもよらず、残念でならない。今はただ、西村さんの魂が主になって安らかであるように、そして残されたご家族の上に、主の慰めが豊かにあるように祈るばかりである。

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.14

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



ガガイモ (横浜キャンパス)

ガガイモ (蘿摩)

冬、暖かい日を受けて、ガガイモのタネは、卵くらいの大きさの莢から出てくる。タネは、白色で絹のような光沢の毛を持ち、日に輝いて風を待っている。この姿、感動の瞬間である。

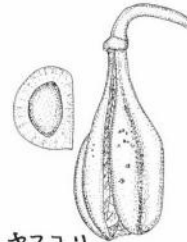
この植物、古くは『古事記』にカガミの名で登場し、ごく最近まで、大人や子どもに大変親しまれてきた。新芽や若い実は山菜や民間薬として利用された。子どもたちは、若い実を格好のおやつとした。タネが飛んだあとの莢は、つなげて船にして遊び、また、莢の中に米粒を入れ、囲炉裏のオキで煮て食べた。



テイカズラ
林の中で銀色の毛が目立つ。



リョウブ
タネの表面は光の干渉作用で虹色に光輝く。



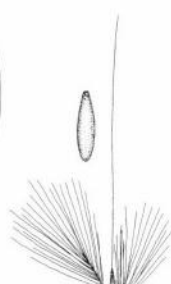
ヤマユリ
何百ものタネが風で飛ぶ。



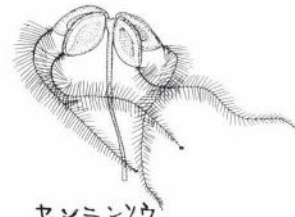
ユリノキ
このタネ、見ていると人の姿になる。



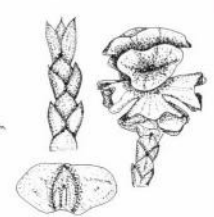
サルスベリ
タネは小さいが、翼で飛ぶ。翼を持っている。



メリケンカルカヤ
最近すごく増えた。タネにその仕掛があるの。



センニンソウ
タネの毛は仙人の髭に似ている。

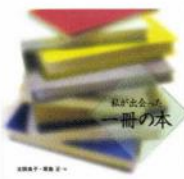


サワラ
大きな木にしては、小さなタネ。パンダが泣くように似る。

出版物のご案内

昨年、生涯学習センター10周年を記念して「私が出会った一冊の本」というテーマで特別企画公開講座が開かれました。その時の講演をまとめた本が刊行されました。

学外の著名な先生方をはじめ、池田守男理事長・院長、鮑戸弘学長、本学教授陣が紹介する21冊の本は、古今東西の専門書・文学書・評論…と多岐にわたり、非常に興味深い内容となっています。是非ご一読ください。



『私が出会った一冊の本』
(太田良子・原島 正=編
新曜社 2,800円+税)

東洋英和女学院学院報 楓園 第54号

発行日：2008年11月12日
編集：学院報編集委員会
発行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3325
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.toyoeiwa.ac.jp

クリスマス行事のお知らせ

- 東洋英和女学院では学院各部におきまして、以下の日程でクリスマス礼拝・関連行事を行います。【書字の行事は一般公開です】
 - 東洋英和幼稚園
 - ★二月一〇日(水) 母の会アドヴェント礼拝・祝会
説教者 吾妻國年副院長
 - ★二月一六日(火) 幼稚園(母子)アドヴェント礼拝
(アドヴェント期間中は子どもとの音楽会やおはなし会なども楽しみます)
 - 小学部
 - ★二月一日(月) クリスマスツリー点灯式
 - ★二月三日(水) 母の会クリスマス礼拝
 - ★二月三日(土) むかえようクリスマス
一四時より小学部講堂にて
(室内履きも用意ください。四歳未満のお子様の入場や途中での入退場はご遠慮ください)
 - ★二月一八日(木) 小学部クリスマス礼拝
中高部
 - ★二月一日(木) 母の会クリスマス礼拝
説教者 平野克己牧師 (代出教会)
 - ★二月二三日(土) クリスマス音楽会
一三時、一五時より新マーガレット・クレイク記念講堂にて(九月、一月の学校説明会でアンケートを提出された五・六年生に案内状をお送りします)
 - ★二月一九日(金) 中学部クリスマス礼拝
高等部クリスマス礼拝
説教者(高等部) シュー土戸ポール協力牧師 (大森めぐみ教会)
 - 大学
 - ★二月二八日(金) チャペルコンサート
出演 廣野嗣雄東京藝術大学名誉教授(オルガン)
一八時三〇分開演
 - ★二月三日(水) アドヴェント夕礼拝
クリスマスツリー点灯式など
一八時一〇分開演
 - ★二月三日(月) クリスマス礼拝
説教者 深町正信青山学院名誉院長
一八時一〇分開演
(横浜校地礼拝堂にて。すべて入場無料 予約不要です)
 - 大学付属かえで幼稚園
 - ★二月一六日(火) 三歳児クリスマス礼拝
九時三〇分より
 - ★二月一八日(木)・一九日(金) 四・五歳児クリスマス礼拝
一六時四十五分より
 - ★二月二〇日(土) かえで幼稚園卒業小学生クリスマス礼拝
一五時三〇分より
 - 全学院
 - ★二月五日(金) クリスマス礼拝 (全学院教職員対象)
 - 同窓会
 - ★二月六日(土) クリスマス礼拝
一三時三〇分より
六本木校地中高部小講堂(六階)にて
説教者 山本香織小学部部長
- それぞれ詳細につきましては、各部におたずねください。